

## 2. 河川利用に関する現状と課題



巴川は、現在の静清地区の礎をなす駿府城下町や清水湊の発展に大きく寄与し、その利用形態も時代と共に変化してきました。



広重の描いた清水湊



カワラ集積場の賑わい（大正時代 大正橋）



賑わいを見せた河畔の魚市場（明治40年代 港橋）



筏の曳き船（平成6年）

地域の水辺空間として、身近に豊かな自然環境が体感できる場や市民の憩いの場として整備が図られています。

江尻親水護岸の整備



長尾川の水辺散策路



浜田親水公園の整備

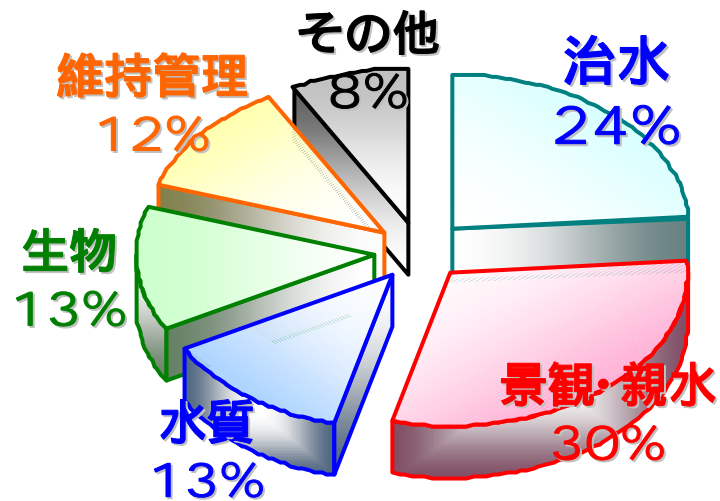


高部みずべ公園



各地で豊かな自然環境が体感できる場として利用されつつも、さらに多くの方々が身近な水辺の自然環境と触れ合うことを望んでいます。

### 意見交換会の意見分類



### 意見交換会 主要な意見

「川辺の散策路等の親水施設がほしい」

「四季を通じて川に親しめるように...」

「子どもが安全に水辺へ近づけるように...」



しかしながら、護岸への落書きやゴミの不法投棄などが後を断ちません。



護岸への落書き (JR橋)



ゴミの不法投棄 (麻機遊水地)



階段護岸 (巴川橋上流)

各地で貴重な水辺空間として利用されており、さらなる拡大と活用が期待されるため、施設の利活用の実態を把握し、適切に対応する必要がある。

課題を解決するためのキーワード

河川の歴史や文化の伝承

地域と河川の深い関わりの認識と構築

住民意見の反映と活力の発揮、

住民参画による川の魅力再発見

利用者のマナー向上（ゴミ、落書き、利用ルール）